

『ほらおっさん、顔見られながら手コキされんのが好きなんだろー？ 願いやってんじゃん まだまだ射精んだろ？』

『あああいやっ』

もうっ……8発目ですっ

も、もう射精ないっです……っ！』

『嘘つくんじゃねーよ
ちんこほちゃんと勃ってんぞ
きんたまの中からっぼんなるまで
絞り尽くしてやっから
ほらだせだせっ』

『あっあああああああっ！』



『ほあああつっ
イグツッイグウウウ
もう射精ないって言ってるのを
また射精するううううっつっ』

『ほいー♥
8発目え♥
ほーらおちんちん
気持ちいいねえー♥』

ホ
ウ



「ほれほれほれほれえ
まだでんだるー？♥
15回目ぐらいから潮しか吹いてねえぞ
腰ガクガクさせて♥ 試験官なら
もう10発ぐらい余裕っしょ♥」



『大鳳うずら、最終試験通過、か』



『ふむ』

『なるほど』



『この歳で子供がいるのか』

『おい、誰でもいい大鳳うずらの過去のデータを集める』

『いい情報を持ってきたものには「目つき」きりで世話をしてやる』

『ぞおおおおおー!!』



『せ、先生……っ!!
だ、だめですっ!
あたし……っこんなつもりじゃ……っ』

『そ、それは……っ』

『いいだる大鳳っ
お前も望んでたんだろっ?』

『それに、もうみんな帰ったし
ここには誰もこない』

『そ、そういう問題じゃ
ないです先生え……っ』

『大鳳っ、俺、お前のことが
好きなんだよ、もう我慢の限界なんだ、大鳳っ!!』

『こ、こよなっ…』

「ん」

『あああああ
はいっただいはいっただい大鳳っ!!』

『はいっ♡ほ……っ♡
せんせつあたしっ嬉しいっ♡』

『ああ、俺も嬉しいよ大鳳っ!
気持ちよすぎて腰がとまりねえ!!
このまま一回出すぞっ!!』

『せんせつ中はっ
申はだめですっ!!
赤ちゃんっできちゃうっ!!』

『いいなあ、大鳳っ
俺の赤ちゃん産んでくれえっ!!』

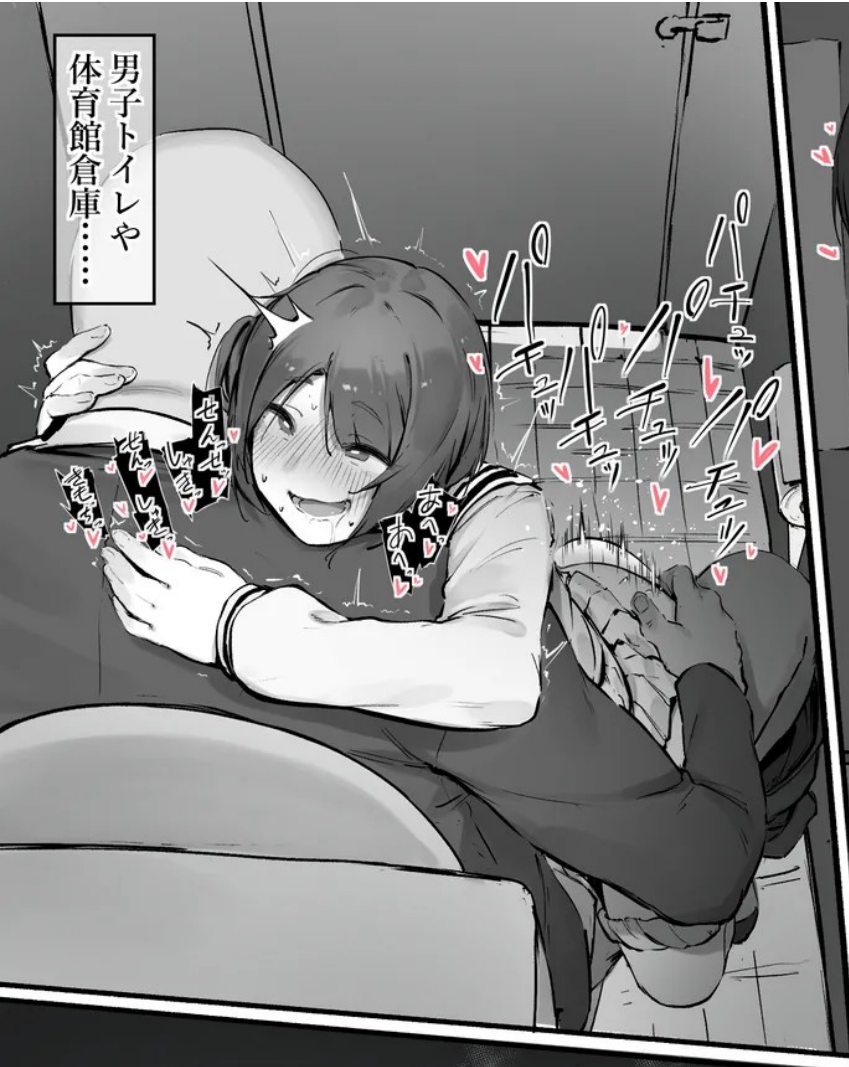
『そん……っ
せんせつだめ……っ♡』



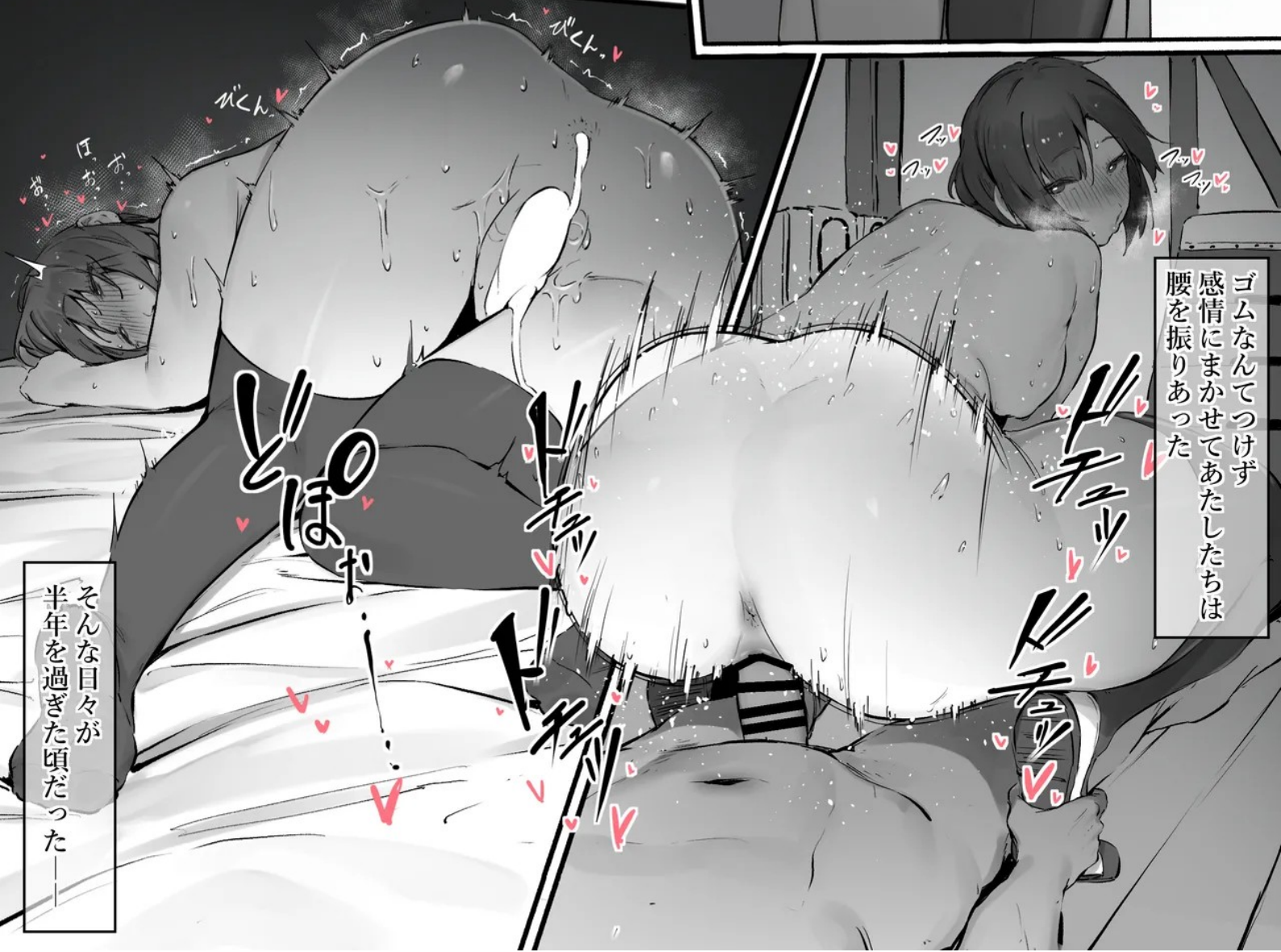
『んほおお
おおおお』



男子トイレや
体育館倉庫……



それからというもの
あたしと先生は
場所なんておかまいなくセックスした



ゴムなんてつけず
感情にまかせてあたしたちは
腰を振りあった

そんな日々が
半年を過ぎた頃だった――